

令和5年度第1回東郷町地域公共交通会議 議事録

日時 令和5年6月19日(月)

午前10時から午後0時15分まで

場所 東郷町役場2階 大会議室

出席者(敬称略・順不同)

	役職	所属等
1	会長	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授
2	副会長	東郷町健康福祉部長
3	委員	諸輪地区代表
4	委員	祐福寺地区代表
5	委員	白土地区代表
6	委員	御岳地区代表
7	委員	名鉄バス(株) 運輸本部地域交通部地域交通課首席交通企画官
8	委員	公益社団法人 愛知県バス協会 専務理事
9	委員	瀬戸自動車運送(株) 取締役
10	委員	名古屋タクシー協会 専務理事
11	委員	愛知県交通運輸産業 労働組合協議会幹事
12	委員	国土交通省中部運輸局 愛知運輸支局首席運輸企画専門官
13	委員	愛知県都市・交通局 交通対策課担当課長(代理出席:主事)
14	委員	愛知県尾張建設事務所 維持管理課長
15	委員	愛知県愛知警察署 交通課警部(代理出席:巡查部長)
16	委員	東郷町都市環境部長
17	委員	日進市生活安全部 防災交通課 移動政策室長
18	委員	みよし市都市建設部 都市計画課長
19	委員	豊明市行政経営部 企画政策課長

欠席者 1名(和合ヶ丘地区代表)、傍聴者 10名

1 町長あいさつ

- ・ 昨日まで三重県にてG7交通大臣会合が開催され、「イノベーション」を通じた「アクセシブル」で「サステイナブル」な公共交通の実現に向け会合が開かれたところである。物流業界では2024年問題があり、ドライバーの時間外労働時間の上限により物流に限界がある一方で、ネットを通じた購買や景気の回復により物流需要は増大しており、深刻なドライバー不足が懸念されている。これはタクシー業界でもバス業界でも同様であり、「持続可能」な公共交通とするために即刻対処しなければならない状況であると認識している。
- ・ イノベーションを通じた公共交通としては、愛知県において名古屋駅とイオンタウン千種を結ぶ自動運転をスタートすると発表があった。先日、先の愛知県副知事であり、現顧問の森岡顧問、そして古本副知事と別々にお会いする機会があったが、話題の大半がEV・FCV、カーボンニュートラルを含めた公共交通に関するものだった。名古屋市営地下鉄・バス、名鉄電車・バスを中心とし、各自治体が運営するコミュニティバスとの連携により地域公共交通が機能しているが、今後の公共交通を「持続可能」なものとするべく、ドライバー不足、高齢化、人口減少の要因がある中でどのように公共交通を維持していくのか、愛知県としても強く課題意識を持っているとのことであり、本町と意見を一つにし、今後も県と連携を図っていくこととした。事業者においても自動運転、EV・FCV化に関する投資が今後大きくなると考えられ、大きくなれば持続可能性が問われることとなる。
- ・ 本町は小さな町ということもあり駅がない。数キロ広げると近隣市に5つ駅があるが、駅までのアクセスを考えると課題があると認識している。持続可能性ということでは、現在運行している民間バス路線を維持しつつ、住民の皆さんの生活の利便をどう担保していくのか。これらを両立させていくことの大変さは、委員の皆様は十分認識されているところではあるが、住民のニーズの高さもご理解いただきたい。
- ・ 公共交通においては「持続可能性」がキーワードとなるが、現在7千万円ほどの予算で巡回バスを運行しているが、いくらまでの投資が適切なのかも重要な問題である。一度運行を始めれば、それに伴う費用も発生する。また、町として利便性向上を図るため、ルート見直しやダイヤ見直しを行い、再編前まで年間利用者15万人であったものが、現在は17万人の皆様にご利用いただいている。利用者が多い方が良いのか、それともコストに目をつむり隔々の地域まで運行させる方が良いのかは難しい問題ではあるが、地域にとって最善の公共交通を目指したい。
- ・ 本年は巡回バス路線変更後の評価を行う年である。新たな公共交通へ向けた出発点ととらえることもできる。「イノベーション」を通じた、「アクセシブル」な、そして「サステイナブル」な公共交通の構築ができるよう是非とも忌憚のない意見を聞かせてほしい。

2 委嘱状交付

- ・ 委員に委嘱状を交付。
- ・ 委員互選により、会長を選出（名城大学理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授を会長に選任）。
- ・ 会長により副会長を選出（町健康福祉部長を副会長に選任）。
- ・ 会長により監事を選出（祐福寺地区代表、町都市環境部長の2名を監事に選任）。

3 会長あいさつ

- ・ 町長挨拶で交通大臣会合の話があったが、大切なのは皆さん一人一人が我が事として捉え、町にある資源を育てていくという姿勢である。何かだけをやりすぎることはよくない。調和をとりながら育てていくことが大切である。そして、育てていくためには、「交通手段間の連携」というものが非常に重要であり、新しい手段も含めて皆様と一緒に積み上げていきたい。

4 議題

- (1) 令和4年度事業報告及び歳入歳出決算報告について（資料1-1、1-2）
【事務局説明及び監事による監査報告】

※議題(1)について、委員の承認を得た。

- (2) 令和5年度歳入歳出予算の補正について（資料2）
【事務局説明】

<会長>

- ・ 補助対象経費が7,370,000円、補助金が1,842,500円だが補助率は。

<事務局>

- ・ 補助率1/2である。事前に運輸支局に確認したところ、予算の範囲ということもあり新しく計画を策定するものを優先としている。本町は中間評価を行うものであるため、若干の減額となっている。

<会長>

- ・ 交通大臣会合でも持続可能で誰もが移動できる手段の提供が大切であるとされており、今後補助が増えることを期待したい。

※議題(2)について、委員の承認を得た。

- (3) 生活交通確保維持改善計画（案）について（資料3-1、3-2）
【事務局説明及び愛知県交通対策課による補足】

<会長>

- ・地域間幹線系統補助について、現状の人数はどのような状況か。

<事務局>

- ・昨年度は16人を超えている。

<会長>

- ・地域間幹線系統は15人を切ると国の補助の対象から外れてしまう。地域間幹線系統の補助がなくなると、支線の補助もなくなってしまうことから、我々は支線のみならず幹線もしっかり見なくてはならない。基準は超えてはいるものの安心できる値ではないため、引き続き利用促進を含めて検討しなければならない。

<諸輪地区代表>

- ・東西線は諸輪地区から唯一赤池駅へ行ける路線である。本数が2時間に1本であるので現状は赤池駅まで家族が送迎するケースが多い。また、付近の農場へ実習生がこの路線を利用して通っており、東西線が地域にとって重要なものであると認識している。このため、路線を維持することは勿論、本数の充実を図っていただきたい。

<事務局>

- ・実習農場へは名古屋市の専門学校生が通われているということで、限られた曜日の利用ではあるが定期的な利用が見込まれる。また、輸送量も15を切っていたものが16となり持ち直している。この路線は約10年前にスタートしており、この間、利用の変化や住民意向等の動向を注視し、さらに今年度行うアンケート調査の結果も含め、利便性の良いものとなるよう検討していきたい。

<会長>

- ・住民側から行えることは、とにかく皆さんに利用を呼び掛け、とにかく利用してもらうことである。そうすれば増便も視野に入ってくる。2時間に1本で使いにくいという話であるが、そこを何とか少しでも努力して少しでも利用をしていただきたい。

※議題(3)について、委員の承認を得た。(計画提出にあたり修正が必要となった場合は会長に一任)

(4) 地域公共交通計画の評価等結果(案)について(資料4)

【事務局説明】

<諸輪地区代表>

- ・令和3年4月の路線再編後初めてとなる利用実態調査を行うとあるが、どのようなのか。

<事務局>

- ・住民アンケート、利用者アンケート、乗降調査、乗継ぎ調査等である。

<諸輪地区代表>

- ・2025年には団塊の世代が80歳になり、運転免許証を返納される方も増えるといったこともあり、地区では次の再編に向け、意見・関心が高まっている。
- ・3年前の再編では巡回バスの南北コースが廃止され、東部地域にとって激変をもたらした。地区のコミュニティの中心地である諸輪公民館と役場を結ぶ路線が5便/日あったが、再編により全くなくなってしまった。また、再編前の北コースでは9便/日あったものが再編後の東コースでは4便/日へ減少した。東部地区にとってはそれぞれ再編前の南北コース及び北コースでトータル14便/日から4便/日へと大幅に減少してしまった地区もある。率にして7割減という大幅な減少である。図書館や町民会館へ行けないという声、生活もできないという声も私のもとに届いている。地区にとって利便性の良い再編をお願いしたい。

<事務局>

- ・今年度実施する実態調査の結果を含め、委員の皆様と路線の見直しの必要性の有無、見直し内容を検討、議論して参りたい。
- ・バスターミナルができ、商業施設ができ、ここ数年で大きく東郷町の環境が変わってきた。そういった都市計画とリンクしながら、近隣の鉄道駅への乗り入れや民間バス路線を含めた全体のバランス、さらに巡回バスの過去の利用状況を加味して路線は設定しなければならない。令和3年の再編に際しては、住民アンケートを実施し、その後各小学校区単位で住民意見交換会を実施している。そこで再編案を提示し、住民意見をもとに適宜修正した。また、令和元年度にはタウンミーティングを実施し、意見を交換している。そのようにして作られた再編路線案について、最終的にはこちらの地域公共交通会議に諮り、何度か意見をもみながら決定したものである。
- ・東コースが再編により不便になったという意見は事務局としても把握している。直ちに路線を再編するのは、住民アンケートの実施や会議に諮るといった必要なプロセスを経なければならないため難しい。地区の代表の方に委員としてこの会に参加していただく意義として、地区住民の意見を届けていただくというものがある。先日も諸輪住民からバス本数減少についての意見を伺ったが、その際「バスを利用すると、お洒落をしてお出かけしたい気持ちになる。」といったうれしい言葉も住民からいただいた。アンケート調査では上がってこないこのような住民の生の声がある。良い意見悪い意見含めて地区代表の皆様には是非とも住民の生の声を届けていただきたい。
- ・令和3年の再編後に住民からいただいた意見は全てストックしてある。この意見と中間評価の実施により明らかになる実態をもとに、この会議に諮り、今後どのようにするのかについて委員の皆様と一緒に検討していきたい。

<会長>

- ・この会議に住民代表の皆様に参加していただいている意義は、その地区の抱える問題を発言いただくことではあるが、最終的には優先順位をつけざるを得ない。皆さんそれぞれ意見を持っており、それを全て満たすものとするのができるのかと言えば、

資源が限られているため不可能である。資源とは予算やドライバーのことである。限られた資源の中で町全体として皆さんが納得できるものを作っていくというのが、この会である。勿論最初から我慢することはなく、問題と考えることは今のようにご発言いただければよい。

<御岳地区代表>

- ・御岳地区としては、諸輪のように意見は来ていない。ただ諸輪地区の便が減ったという話は聞く。採算の面もあろうが、公共交通として採算だけでは判断せず、路線の改善に努めていただきたい。

<事務局>

- ・冒頭町長の発言にもあったように、利用者が多くなる路線が良いのか、予算をかけて町の隅々まで走らせる路線とした方が良いのか、というのは公共交通にとって大きな課題である。

<諸輪地区代表>

- ・東部地区は他の地区と比較すると人口が少ないように感じている。こうした状況で一樣にアンケートを行えば、人口の少ない諸輪地区の声が届きにくくなるかもしれないが、この会議の場でしっかり皆と議論していきたい。

<会長>

- ・地区の方と直接対話する場はあったと思うが。

<事務局>

- ・住民懇談会、タウンミーティングがある。

<会長>

- ・住民アンケートは大事だが、直接利用されている住民の声を聴くということも大切である。きめ細やかな移動ニーズを知るというのは今からの時代、非常に重要である。
- ・全てをバスで賄う、全てをバスで問題解決するというのは無理である。バスがふさわしいところ、デマンドタクシーがふさわしいところという具合に役割分担をしていくことが大事である。

※その他意見無く、議題(4)について、委員の承認を得た。

5 その他

- (1) 東郷町コミュニティバス、デマンドタクシー及び名鉄バス東西線の利用状況について（資料5-1、5-2、5-3）

【事務局説明】

<諸輪地区代表>

- ・デマンドタクシーの運行は町内限定であり、町外の駅に行けないことが不便という意見を聞いている。また、利用しようとしても予約がいっぱいで断られることがあると

聞いているがいかがか。

<事務局>

- ・デマンドタクシーの導入コンセプトは町内移動を支援するというものである。駅へのアクセスについては、他の公共交通機関への乗り継ぎ利用により可能となる。諸輪地区でいえば、名鉄バス東西線に乗り継ぎ町外駅までアクセスできる。デマンドタクシーの利用を町外まで認めるか否かについては、他の公共交通事業者への影響があるため、民間公共交通事業者を含めた話となる。
- ・予約が取りづらいということに関しては、午前中に予約が集中している状況である。また、3社の事業者と契約をしているが、特定の1社へしか予約の電話をされない利用者もいる。時間帯をずらし午後の利用とすることや、特定の事業者にこだわらず他の事業者の運行するタクシーを利用するといった利用者の利用の仕方を工夫することで解決できる部分も多いため、利用者への周知に努めたい。

<諸輪地区代表>

- ・総論としてはそのとおり。ただ、現実問題として、3時間に1本の巡回バスにのって2時間に1本の名鉄バスに乗り継ぐのは難しい。増便してもらわないと乗継ができない現状である。

<会長>

- ・直接行けるのが一番だが、一方でそれにより既存の公共交通が弱っていくのは避けなければならない。理想的には既存の公共交通に乗り継いで行ってもらいたいことだ。諸輪からだど、例えばいこまい館まで行き、名鉄バスへ乗り継ぐというのが考えられる。そうすれば15分から20分に1本は名鉄バスが走っているので良いのではないか。ただ、料金の問題はある。せっかく色々な交通手段ができて繋がっているのに、その手段が乗り継ぐことによって高くなってしまふ。本来なら、乗り継ぐということは利用者にとって余分な動きをさせているため、安くならなければならない。目的地にダイレクトに行けるのは利便性が良いので高くても当然であるが、余分な動きを強いる乗継が安くないのは日本の運賃制度の問題である。今後DXの力を借り乗継割引等を検討し、実現できたら良い。
- ・巡回バスの収入の伸びが著しい。従前は乗車賃無料である高齢の方の利用が多かったが、商業施設ができ、若い方の利用や、従業員の利用が増えたことが大きい要因であり、ありがたいことである。
- ・デマンドタクシーについては、利用実態調査により問題点を明確にするとよい。また、僅かではあるが利用頻度が著しく多い方がいる。この特定の利用者が予約を抑えてしまい他の利用者が使えない状態であるのか、タクシー事業者と意見交換し実態を明らかにするとよい。

(2) 令和5年度東郷町地域公共交通計画に関する事業計画について（資料6）

【事務局説明】

※その他(2)について、意見等なし。

- (3) 東郷・藤田医大バスにおけるダイヤ変更について（資料7）

【事務局説明】

※その他(3)について、意見等なし。

- (4) 地域公共交通計画中間評価に係る実態調査について（資料8-1, 8-2, 8-3, 8-4, 8-5, 8-6）

<諸輪地区代表>

- ・町民アンケートの4ページ、再編により激変した地区の人の意見が集約できるアンケート項目になっていない。
- ・利用者アンケート5ページ、じゅんかい君の路線再編について知っている・知っていないと回答する項目がある。内容を見ると「セントラル地区を中心とした路線に見直しを行ったこと。」「バスターミナルを発着点とする経路に変更したこと。」とあるが、大きく激変した東部地区の内容が全く取り上げられていない。このアンケートでは東部地区の意見がわからない。不満に思う東部地区の意見がわかるアンケートにして欲しい。

<事務局>

- ・住民アンケートの問2では、満足度や利用頻度、路線等を聞いている。そして問3では不満理由、利用しない理由として、行先、時間、本数等々を聞いており、不満意見を聞く設問となっている。

<会長>

- ・町民アンケートの4ページは不満を吸い上げる設問となっており、これを地区ごとに集計することにより、例えば諸輪の不満が高いのであれば、現状の路線に対する不満として集計に現れることとなる。利用者アンケートについても3ページで満足度についての設問があり、この集計により諸輪地区が突出しているか否かが判明する。ただし、再編した結果、利用しなくなってしまった人についても明らかにするために、町民アンケート中の利用状況の設問に、「再編前から引続き利用している」「再編前だけ利用していた」「再編後から利用し始めた」を追加する修正を加えること。これにより利用を辞めた人がどのような評価をしているかを明らかにすることができる。

<諸輪地区代表>

- ・集計の際、他の人口が多い地区の意見に東部地区の意見が埋もれてしまわないか。東西南北の地域ごとで満足・不満足が浮かび上がるような集計として欲しい。

<会長>

- ・町民アンケート 3,000 通でどの程度の精度が保証されるのか。東西南北の地域で満足度についての 5 段階の精度は保証されるのか。

<事務局>

- ・お見込みのとおり。

<会長>

- ・町民アンケート 10 ページに「普段のお出かけでの困りごと」についての問を設けている。ここでも、地区ごとの格差があるのか否かを知ることが可能である。さらに、デマンド交通を利用している人、じゅんかい君を利用している人、その他公共交通を使っている人によってこの差が生じるのか否か。逆に知らなかったがためにこぼれているということも見えてくるのではないか。
- ・バスを利用していても「お出かけの困りごと」はあるかもしれない。利用者アンケートの 4 ページにも設問を追加すること。

(5) その他

<祐福寺地区代表>

- ・祐福寺地区は大きな変化が無かったため、諸輪地区のような意見はなかった。一般的に考えると、大きな変化があれば当然意見も出るだろう。もう少し段階的に行うことはできなかったのか。

<事務局>

- ・アンケート、住民懇談会等といった所定のプロセスを踏み行っている。しかし、結果としてそのような意見が出るということは、周知の面でも足りない部分があったものと思われる。よって、今回中間評価を行い、計画を諮っていく際には、この会議にいる地区の皆様を含め、アナウンスの面で様々な場で周知できるようにしたい。

<白土地区代表>

- ・初めて委員となったこともあり、会議参加にあたり事前に地元の老人会で意見を聞いてみたが、意見は出なかった。白土地区は名古屋市に隣接し、買い物も病院も徒歩圏内で完結する地域ということもあり、地域公共交通に頼らないで生活している人も多いように思う。しかし、交通弱者はいると思うので、今後この会を通じて意見を述べたい。

<御岳地区代表>

- ・デマンドタクシーについて広報等で知ってはいたが、その詳細は本日初めて理解した。町による周知活動だけでなく、私自身も地区の集まりで皆に周知していきたいと思う。

<会長>

- ・地区代表の皆様には、地区の声を届けていただくとともに、是非、会議の結果を地区住民の皆様にお伝えいただきたい。

以 上